

# 経済・金融フラッシュ

No.07-118 2007/12/06

## 米 11 月ISM指数は、製造業・非製造業とも下落

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 主任研究員 土肥原 晋

TEL:03-3512-1835 E-mail:doihara@nli-research.co.jp

### 1、製造業指数は 10 ヶ月ぶり、非製造業指数は 8 ヶ月ぶりの低水準に

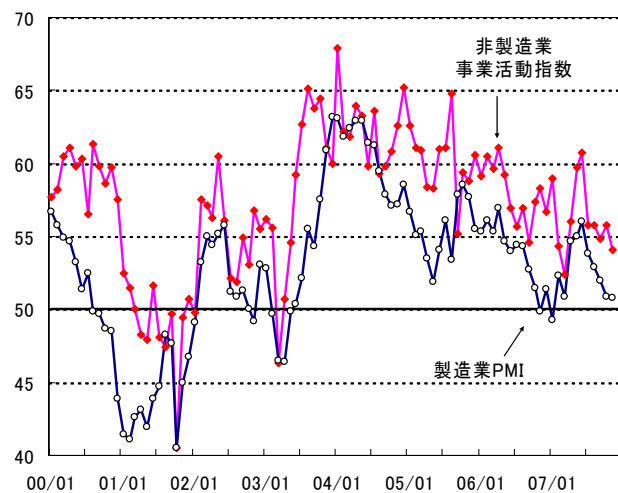
企業のセンチメントを示す I S M (米供給管理協会) 指数は、12 月 3 日発表の 11 月製造業指数 (PMI) が 50.8 (10 月は 50.9) と、5 ヶ月連続の低下となった。市場予想と一致し、1 月以来 10 ヶ月ぶりの低水準となる。同指数は 1 月に 49.3 と製造業の拡大・縮小の分かれ目とされる 50 を下回ったものの、その後 6 月には 56.0 まで回復し、再び低下の動きを続けていた。ただし、2 月以降は 9 ヶ月連続で 50 を上回っており、製造業の拡大がなお持続していることを示した。

一方、5 日に発表された 11 月の I S M 非製造業事業活動指数は 54.1 と 10 月 (55.8) から低下、市場予想 (55.0) を下回り、3 月 (52.4) 以来 8 ヶ月ぶりの低水準となった。また、56 ヶ月連続で 50 を上回ったこととなる。

最近の米国経済では、住宅市場の冷え込みやサブプライム問題の拡大による信用不安、原油価格高騰、等からの实体经济への影響が警戒されている。特に、10-12 月期以降の景気減速の強まりが懸念されており、この点、11 月 I S M 指数が製造業、非製造業共に低下したことは、そうした見方を裏付けるものと言えよう。しかし、いずれの指数も、依然、景況感の分かれ目である 50 は上回っており、景気が急に失速するほどの状況を示しているわけではない。

なお、以下の指数別内訳では、両指数とも、輸出が高水準にある中、輸入が低水準に下落するなど、米国経済の外需依存の高まりを示すものとなった。また、これまで景気を下支えしてきた雇用指数が低下している点にも、留意しておきたい。

(図表1) ISM指数の推移



(資料) Institute for Supply Management、図表 2・3 も同じ。

(各指数の内訳)

## 2、製造業指数の内訳では、雇用低下の一方、仕入れ価格が上昇

I SM製造業指数のうち、主要指数別に 11 月の動きを見ると、生産指数が 51.9 (前月 49.6)、入荷遅延 51.7 (前月 50.6)、新規受注指数が 52.6 (前月 52.5) と持ち直し、半面、雇用指数が 47.8 (前月 52.0)、在庫指数が 46.9 (前月 47.2) と低下した。このほか、仕入れ価格の上昇(前月 63.0→67.5)、顧客在庫の減少(前月 54.0→49.0)、受注残の減少(前月 46.0→41.5)、等の変動が大きかった。

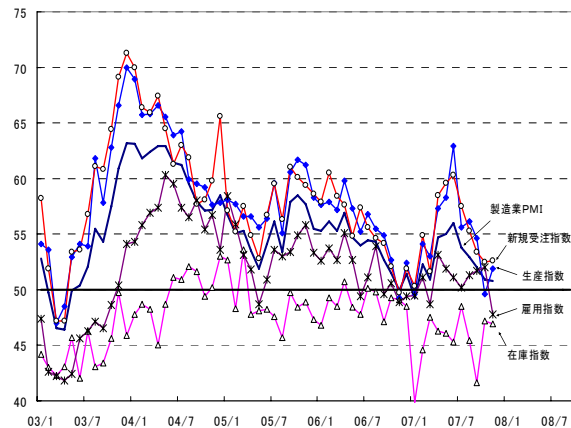
11 月各指数の動きで懸念されるのは、雇用指数下落と価格指数の上昇であろう。

価格指数の上昇はエネルギー価格の上昇によるものであり、雇用指数の下落は、雇用を減らした業種が 19 となるなど、8 月 11 業種から毎月増加していることによる。

そのほかでは、輸出受注指数 (11 月 58.5) の上昇と輸入指数 (11 月 47.5) の低下傾向が目立つ。輸出受注指数は 6 ヶ月ぶりの高水準にある一方、輸入指数は 2 月の 61.5 以降下降傾向を辿り、10 月以降は 50 割れの水準に低下している。

もともと、生産指数、受注指数とも前月より回復しているため、急速に状況が悪化しているわけではない。全体の PMI 指数は 5 ヶ月連続で低下しており、各指数とも月ごとの動きはまちまちながら、次第にレベルを低下させている状況と言えよう。

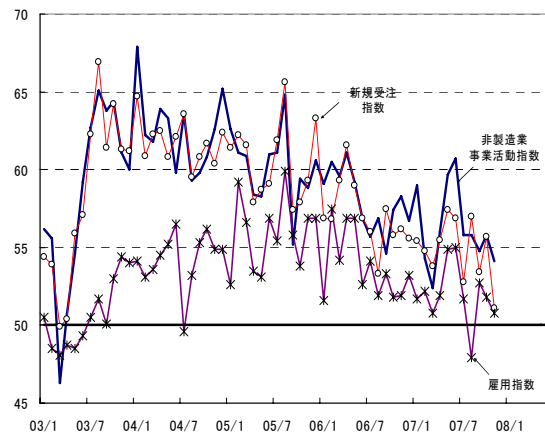
(図表2) ISM製造業指数の内訳と推移



## 3、非製造業では新規受注が低下の一方、輸出・輸入指数の水準乖離が拡大

I SM非製造業指数のうち、11 月の事業活動指数以外の動きを見ると、新規受注が 51.1(前月▲55.7)、輸入 49.5(前月 55.5)、等が大きく低下し、新規輸出受注も 55.5(前月 56.0) と低下した。新規輸出受注が低下したのは、10 月に急上昇した (9 月 50.0→10 月 56.0) 要因が大きく、輸出好調の半面、輸入鈍化が鮮明化した点では製造業と同様である。また、雇用指数は 50.8 (前月 51.8) と連月で低下したが、50 は維持した。業種別に見た雇用減の報告は、人材派遣、建設、

(図表3) ISM非製造業各指数の推移





ヘルスケア、リクレーションの4業種であるが、これまでサービス部門の雇用増を牽引してきたヘルスケア、リクレーションが含まれており、この点、明日の雇用統計が注目されよう。

一方、上昇が目立つのは仕入れ価格で76.5（前月63.5）と前月から13ポイントの大幅上昇となった。11月に価格上昇を報告した業種は46%（前月30%）に達し、サービス業でもエネルギー価格上昇の影響は大きい。そのほかでは受注残が48.5（前月43.5）と5ポイントの上昇を見せたが、依然50を割り込む水準に留まっている。

---

(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)